

冬空に花を咲かすツバキ属 3 兄弟

飯能市立博物館 学芸職員 岸 裕介

寒さ厳しい冬の季節。植物たちも葉を落したり冬芽を堅くガードしたりと身を守ることに必死で、花を咲かせる植物はまれです。今回はそのような季節でも大輪の花を咲かせ、私たちの目を楽しませてくれるツバキの仲間を紹介します。

飯能市内で見ることのできるツバキの仲間は、ツバキ科ツバキ属の 3 兄弟、チャノキ、サザンカ、ヤブツバキです。学名にするとそれぞれカメリア・シネンシス、カメリア・ササンカ、カメリア・ジャポニカとなります。属名のカメリアはツバキを 18 世紀のヨーロッパに伝えたイエズス会宣教師で植物学者のゲオルク・ヨーゼフ・カメルに由来するそうです。

チャノキの種名のシネンシスはラテン語で「中国の」という意味で、日本には栽培作物として 12 世紀に僧侶の栄西が持ち帰って茶の飲用とともに広まったとされています。通常、茶畑で大切に育てられていますが、人が植えたものが放置されて野生化していることも多いです。天覧山・多峯主山でも雨乞池周辺などに点在し、本郷入りでもよく見られます。おそらくその付近まで畑や雑木林として人の手が入っていた頃に植えられたのでしょう。

サザンカの種名のササンカとは日本語の「サザンカ」が由来です。日本固有種ですが、九州・四国・山口県などが本来の生息地なので、飯能では庭木などの植栽木としてのみ見られます。漢字の「山茶花」は中国語でツバキ類を指す「山茶」が由来で、「サンサカ、サンザカ」の読みがなまったといわれます。多くの園芸品種があり、よく見かけるタチカンツバキもその一種です。

ヤブツバキの種名はジャポニカ、日本の低地から山地の暖温帯を代表する樹種です。ヤブツバキは熱帯～亜熱帯に多いツバキ属の仲間のうちもっとも寒冷地に適応した種で、東北地方など寒い地域では海沿いに多いですが、飯能の周辺では丘陵から標高 700m 付近までの山地に生え、また庭木としても多く植えられています。

よく似た 3 兄弟の見分け方は、サザンカは花びらが一枚ずつ散るのに対し、ヤブツバキは花びらと雄しべが根元で一体となっており花ごと落ちます。花期はチャノキとサザンカは晩秋の 10～12 月ですが、ヤブツバキは 2～4 月です。また、チャノキには葉の網目模様の葉脈が表面で凹み裏面で突出するという目立つ特徴があります。

【参考文献】

山田隆彦監修『自然散策が楽しくなる！葉っぱ・花・樹皮で見わかる樹木図鑑』池田書店 2021 年 4 月

山下裕監修『天覧山・多峯主山の植物 秋・冬編』飯能市教育委員会 2020 年 11 月

永野巖『埼玉四季の植物』埼玉新聞社 1990 年 9 月



画像 1 チャノキ



画像 2 サザンカの園芸種タチカンツバキ



画像 3 ヤブツバキ